

急性アルコール中毒

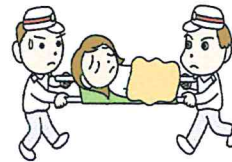


0.100



■ 急性アルコール中毒の症状とは

激しい嘔吐、呼びかけても反応がない、呼吸数が少ない頻脈、失禁する、低体温、低血圧、昏睡、吐物をのどに詰まらせて窒息死などの症状があります。



■ お酒に強い人と弱い人の違い

お酒に含まれるアルコールは、肝臓で分解されてアセトアルデヒド(有害物質)になり、さらに分解酵素の働きで無害な物質に変化します。

○飲める人はこの分解酵素の働きがよくスムーズです。



(ほろ酔い→酔っ払い→泥酔と徐々に酔いがまわります)

○飲めない人はアセトアルデヒドを分解する酵素が少なく十分に機能しません(日本人の約40%の方が生まれつき飲めないタイプと言

少量のお酒で血圧が上がって真っ赤になったり、血圧が下がって顔面蒼白になったり、頭痛、吐き



H・13年12月25日施行→危険運転致死傷罪



お酒の無理強いは止めましょう
(これから運転する人にお酒

急性アルコール中毒は嘔吐による窒息死亡事故や転倒による外傷(階段、飲酒自転車での転倒など)のほか、短時間に大量飲酒をすることにより発症する一気飲みなどで死にいたることもあります。



- ・ おつまみなどを食べながらゆっくり飲みましょう。
- ・ 体調の悪い時は飲まないよう心がけましょ

■ 飲んでいて体調が悪くなった人がいたら

- 1、意識の有無確認
- 2、衣類を緩める
- 3、吐物をノドに詰まらせないように横向きに寝かせ、横向きのまま吐かせる。
- 4、おいびきをかき、反応がない時や脈が異常に速かったり、遅かったりしている時は病院に搬送しましょう。

医療機関では外傷、低血糖のチェックなど全身状態のチェックをし、点滴(水分補給)などの治療をします。



新人歓迎会、お花見、大学のサークルの集まり、忘年会とお酒を飲む機会に遭遇しますが、お酒は楽しく飲むもの、飲酒マナーを身につけ、自分の適量を知ることによって事故の再発を防止しましょう。

(平成18年東京消防庁データより)

急性アルコール中毒による搬送が多い「月」、「曜日」、「年齢」、「性別」は.....

12月、4月、7月

土曜日、金曜日、日曜日

20歳代、30歳代、60歳以上

女性が約40%



人生これからという若い命を落としていく、急性アルコール中毒の恐さとは・・・「窒息」と「転倒」と「一気飲み」です。

急性アルコール中毒とは血中のアルコール濃度が約0.15%以上上昇すると同時にアルコールが分解して出来るアセトアルデヒド(吐き気を起こす作用がある)の上昇が起こります。(血中濃度0.4%以